

山梨市
再発見!

平成26年
9月14日(日)
八幡大神社 13:00 集合 13:10 散策開始

古道散策・講演・交流会
かのがわ古道の整備に見る人づくり

講師 かのがわ古道の会 会長 藤巻真史

かのがわ古道概略図

八幡大神社
創建は神皇元年（七二四）とも貞観年間（八五九～八七）ともいわれている。宇佐八幡宮から勧請され、この地まで来たとき神輿が動かなくなったのを見て、甲斐太守が「甲斐が幸いの地」と言ったことから「福地八幡」とも呼ばれている。

菅吹川遊歩道へ
駐車場
加納岩児童公園（スポーツ広場）

下神内川の三分水へ

スポーツ広場
その昔は神社の境内地と使われるが、時代が進み、国からの土地の払い下げを申請した。昭和二十五年より開墾。その後昭和五十四年、藤巻真史氏が区長を務めた際、市へ依頼して移管のかわりにスポーツ広場として整備された。

かのがわ古道
それは下神内川の西称院の奥の山崎と一枚の古い地図から始まった。西称院の門前に祀られている庚申塔には、「石はさばら、左川うら」と刻まれている。これは南、すなわち鎌倉方面から御坂峠、目川を渡って下神内川へたどりついた旅人や、甲府方面から石和の松本を経て御坂から大野を渡り西称院へ。また西から正徳寺へ下神内川間の一本橋を渡ってまた旅人が、下神内川から上神内川を渡って小原、八日市場に達したことを、現在に伝えている貴重な庚申塔であり、古道の証である。

根津記念館へ
かのがわ広場

公会堂 講演会場
西称院

石造物 川端 亀腹

主催 公益社団法人山梨青年会議所

イベント内容

山梨市下神内川地内の「かのがわ古道」を藤巻氏の先導により、設備内容や祀られている神仏等の説明をいただきながら散策。八幡大神社から「かのがわ広場」までの約1Km。

下神内川2区公会堂に移動し藤巻氏による講演会。

講演内容

- ・かのがわ古道の遺物・下神内川の風俗について。
- ・かのがわ古道整備事業の概要と成果について。
- ・角力甚句復活の経緯と継承について
- ・事業に関する人材の発掘・育成（ヒューマンリサイクル）について
- ・意見交換・交流会

イベント予定時間

八幡大神社 13:00 集合

かのがわ古道 13:10 散策

加納岩二区公会堂 14:10 講演会

※荒天時の散策について

- ・少雨時決行
- ・雨天時はスポーツ広場に駐車して、下神内川2区公会堂集合にて、かのがわ古道に関する資料 映像上映。
- ・台風時中止

持ち物・注意事項

暑さが予想されるため、帽子・タオル・水分の用意などよろしくお願い致します。

問合せ先

公益社団法人山梨青年会議所

総務委員会内 新人委員会 担当 萩原邦夫

電話 090-1846-9156

地域文化の発掘・継承についての一考察

～かのがわ古道の整備事業をとおして～

あなたは、自分の住んでいる‘まち’について、どれだけ知っていますか？

区・小学校区・中学校区・市・県などありますが、まずは生活の根拠となっている地元を見つめ直してみるのはどうでしょうか。

ここ数十年の間、山梨市においては、駅前再開発や各種道路の拡幅・新設工事、また、市役所の移転や市役所旧庁舎や商業施設の解体等、大きく様変わりしています。

駅前に関しては、往時の面影はなく、商店・飲食店・住宅は減り、地域社会の健全な運営に支障をきたしているところもあるそうです。

また、景観に関しても、賛否意見の分かれるところでもあります。

小中高と学校が多い土地柄を鑑みても、学習塾ばかりが目立つ現状を見るにつけ、‘まち’とは何なのか考えさせられます。

そんな中でも、各種団体による事業（清掃活動・朝市等）や、地元の氏神様の祭典時の盛り上がりは、地域社会への憂い、また、郷土愛の表れてありましよう。

大きく変わり行く地元を眺めつつ思ったのは、地域の歴史や文化的背景を考慮しつつ、人（地域住民・関係者等）・物（道路・建物等）・運営（地域社会・行政）のバランスが取れた街づくりが必要であるということです。

行政主導による、長期的展望の上でのまちづくりも良いのですが、現住民からの発信で、地域に根差した街づくりについて考えてみようと思いました。

そこで、近年山梨市下神内川地内で行われた「かのがわ古道整備事業」における、歴史文化の発掘・継承、また、その手法について学び、各人の居住地域においての‘まちづくり’活動の際の一助になれば幸いです。

平成 26 年 長月吉日 担当委員長 萩原邦夫